

2023 年度新収蔵資料の紹介 1

—加藤シヅエ氏寄贈資料ほか—

亀丸由紀子・小川正人・大坂 拓

目次 はじめに

- 1 加藤シヅエ氏寄贈資料
- 2 中村啓一氏旧蔵資料

Key Words アイヌ民族 (Ainu)、工芸品 (Folkcraft)、刺繍 (Embroidery)、木彫熊 (Bear woodcarvings)

はじめに

本稿では、北海道博物館アイヌ民族文化研究センターが2023（令和5）年11月末日までに受け入れた新収蔵資料のうち、民具に該当する17件19点について報告する。

資料図版のほか、巻末には、「表 2023年新規登録資料一覧」を添付し資料の法量や製作者などの情報が一覧できるようにまとめた。

執筆は、はじめに・1を亀丸、2を小川と大坂が担当し、協議のうえ、亀丸がとりまとめた。

1 加藤シヅエ氏寄贈資料

(1) 資料収集の経緯

本資料群は、寄贈者である加藤シヅエ氏が、アイヌ服飾研究家として知られる、故三上マリ子氏（1930-1986）の主宰する刺繍教室「サークル チカルカルペ」に通っていた際に製作した刺繍作品6点と、教室で使用していた出席簿や作品を製作するための型紙など刺繍教室の活動内容やその様子を示す資料をまとめたクリアファイル1点から構成される。

加藤シヅエ氏は、アイヌ刺繍工芸家として現在も精力的に活動を続けており、その作品は、国立アイヌ民族博物館を始めとする、さまざまな博物館にも所蔵されている。2023（令和5）年10月25日に、加藤氏より、自身が三上氏主宰の刺繍教室に通っていた際に製作した作品ほか、刺繍教室に関連する資料及び三上氏に関する文書資料一式を北海道博物館へ寄贈したい旨の打診を頂いたこ

とを、収集の契機としている。

この資料群は、まずもって、アイヌ刺繍工芸家として現在も活躍する加藤シヅエ氏の作品であるということ、及び、加藤氏が刺繍を習った三上マリ子氏の足跡など、現代工芸家の活動内容とその広がりを詳細に示す大変貴重な資料である。また、作品と同時に寄贈されたクリアファイルには、三上氏の刺繍教室「サークル チカルカルペ」の開催日時や活動内容が詳細に記録されている資料も含まれることから、現代の工芸家の活動史を明らかにしていくためなど、今後の研究においても極めて重要な資料であると言える。

以上の理由により、2023（令和5）年度第6回資料審査会（2023（令和5）年11月29日開催）で受け入れが承認された。資料番号は190,835～190,841である。

(2) 資料の特徴

資料は、いずれも、加藤氏が故三上マリ子氏の主宰する刺繍教室に通っていた際に製作した作品と、教室で使用していた型紙や配布資料などをまとめたものである。

<刺し子（190,835、図1-1,2）>

三上氏の教室で、糸と針に慣れるための運針練習用として、初めて製作した刺し子。カーボン紙を使用して転写した紋様の下書きに沿って、刺繍糸を用いて、並縫いで仕上げている。型紙あり（図8）。

<刺し子（190,836、図1-3,4）>

三上氏の教室で、運針練習用として製作した刺し子。資料番号190,835と同様、カーボン紙を使用して転写し

た紋様の下書きに沿って、二色の刺繍糸を用いて、並縫いで仕上げている。

<テーブルセンター (190,837、図1-5-7) >

表面は、三上氏の教室で製作したものであり、ウイльтаの紋様をモチーフにしたもの。裏地及び名前を書いた布の縫い付けは、のちに加藤氏が独自に行ったもの。型紙あり (図9)。

<前掛け (190,838、図2-1,2) >

加藤氏が三上マリ子氏の刺繍教室に通い始めた頃 (初期) に教室で製作したもの。後述のクリアファイルに製作時に使用した型紙あり。上部にはギャザーが寄せられ、裾に向かって広がる形状となっている。地布には、赤に2種類の縦縞が入った木綿布を使用し、両縁の中頃及び裾周りには、地布の上に紺色無地の木綿布を切り伏せ、上から白色木綿糸で刺繍を施している。型紙あり (図10)。

<小物入れ (190,839、図2-3-6) >

三上氏の教室で製作したもの。表面は紺色の帆布を地布として使用し、樺太アイヌの紋様をモチーフに切り抜いた赤い木綿布の縁を、薄茶色の木綿糸で縁取るように刺繍している。片側開きのチャック付きで、裏地には、上記の前掛け (190,838) と同じ布を使用している。型紙あり (図11)。

<刺繍作品のパッチワーク (190,840、図3) >

大きさの異なる刺繍作品を12点集めてパッチワークにしたもの。加藤氏によると、三上氏が亡くなった以降、数年間のあいだに製作したものである、とのこと。個々の刺繍作品は、博物館所蔵のアイヌの木綿衣資料の紋様の一部を参考にしたものなどもあり、いずれも、加藤氏が三上氏の刺繍教室で製作したものである。紋様を製作する際に使用した型紙が残っているものもある (図12~14)。

<クリアファイル (三上マリ子氏主催の刺繍教室関連資料一式) (190,841、図4~7) >

加藤氏が、三上氏の開催する刺繍教室に通っていた際の配布資料など一式。年代は、加藤氏が教室に通い始めた1982 (昭和57) 年6月以降のものであり、刺繍教室で使用した、出席簿や作品を製作するための型紙、刺繍の指南書、製作に関する参考文献のコピーなどの配布物が含まれる。

(亀丸)

2 中村啓一氏旧蔵資料

(1) 中村啓一氏の略歴と寄贈の経緯など

本資料は、北海道副知事、参議院議員 (北海道地方区選出) などをつとめた中村啓一氏 (1923~87) の旧蔵資料であり、その子・中村正氏から寄贈の申し出をいただいたものである。

ここでは、先ず中村啓一氏の経歴等を紹介させていただいた上で、本資料の受け入れまでの経緯を述べる。

中村啓一氏は1923 (大正12) 年8月30日富山県富山市生まれ。最終学歴は1946 (昭和21) 年9月東北帝国大学法文学部法律学科卒業であるが、卒業前から内務省 (のち自治庁、自治省) での勤務を開始しており、同年6月から富山県、1948 (昭和23) 年8月から総理庁官房自治課、1949 (昭和24) 年2月から香川県など各地での勤務を歴任している。

1967 (昭和42) 年11月から1970 (昭和45) 年5月まで北海道総務部長、1971 (昭和46) 年10月から1976 (昭和51) 年5月まで道副知事をつとめた。その後1977 (昭和52) 年6月に告示された第11回参議院議員選挙北海道地方選挙区に自由民主党から立候補し当選 (投票日は7月10日)。参院議員任期中には北海道開発政務次官をつとめるなど、この時期の道政・国政の中核を担ったが、道の開発行政のほか、韓国、北朝鮮等の外交、とりわけ、民間外交や友好促進にも精力的に取り組んだとされる。しかし1983 (昭和58) 年7月の任期満了後には次期選挙には立候補せず議員を退き、1987 (昭和62) 年7月7日に逝去された。

中村氏には自治庁・自治省職員のころから地方自治法や自治体財政、選挙制度に関する多くの著作があり、主な著書だけでも、『公職選挙法逐条解説』 (共著、政経書院、改訂新版1963年)、『1978年 最近のヨーロッパの動きをみて』 (中村啓一事務所、1978年)、『79 アメリカ・メキシコ・キューバ・パナマ4ヶ国に見るエネルギー展望』 (同、1979年)、『89 インドシナ半島とアラブ世界 産油国に見るエネルギー展望』 (同、1980年)、『81 東欧・北欧から中東をめぐって 世界の火薬庫・ポーランド、イスラエルを中心に』 (同、1981年)、『82 最近のオーストラリア 大切なこの国との交流』 (同、1982年) がある。

本資料について当館への寄贈の打診があった際、中村正氏による啓一氏の略歴を紹介する文書をいただいているが、その文章は「政治家の一人としてまだまだこれからというときに おもわぬ急病に襲われしむを得ず政界をあとにすることになりました」と結ばれている。当時の経緯を語る短い文言の中に、60歳代の前半にして職を

退き世を去ることになった啓一氏への、畏敬と追慕を強く感じる。

当館がこのたび受け入れた資料は、中村正氏の上記の文書によれば、啓一氏の行政・政治活動の関係者、支援者からおりおりの機会に贈呈されたものとのことであり、下記(2)及び表に見られるそれぞれの作品に刻まれた文字や書き込みからも、このことがうかがえる。

実際、例えば図15-1の木彫り熊には「1978シャクシャイン記念館落成記念 贈北海道ウタリ協会」と刻まれているが、社団法人北海道ウタリ協会（現公益社団法人北海道アイヌ協会）の機関誌『先駆者の集い』第20号（1979年1月1日）は、1978年10月23日に静内町（現新ひだか町）にてシャクシャイン記念館の落成式が行われ、「知事代理の岡崎日高支庁長」に続いて「中村啓一参院議員」らから祝辞があったことを報じている。また、図16-5の壁掛けの裏面に見られる「阿寒町中村啓一とすすむ北海道の会」の「中村啓一とすすむ北海道の会」は、中村氏の後援会組織である。これらの作品を通して、同氏の政治活動の一端や道内の各地位の支援者との関わりをうかがうことができる。

本資料を北海道博物館が受け入れた契機は、2012（平成24）年5月、中村啓一氏の子・中村正氏より北海道開拓記念館に寄贈の打診をいただいたことにある。当時の開拓記念館の担当職員は館として受け入れるべき資料と判断し、館内に報告のうえ取り急ぎ資料を一括で受け取り、館内の資料受入整理室に搬入した。しかし当時は北海道開拓記念館と北海道立アイヌ民族文化研究センターとを統合し北海道博物館を開館する準備が本格化し始めた頃でもあり（2013年11月より開拓記念館は臨時休館し展示室を含む施設設備の改修工事に入り、2015年3月に改修を終え、建物は同年4月より北海道博物館として開館）、資料の受入手続き等を北海道博物館開館後に持ち越すこととなった。

北海道博物館としての開館後、こうした旧開拓記念館・旧道立アイヌ民族文化研究センターからの“積み残し”となった資料の受入れ手続きを徐々に進め、本資料については2016（平成28）年度の北海道博物館資料審査会において受入を決定した。しかしその後の中村正氏とのあいだでの手続きや関連情報の調査等に着手したのは、2023年に入ってからであり、同年5月に中村正氏より改めて寄付申込書をいただき、当館において必要な手続きを終えるとともに、並行して関連情報の調査を進めることができた次第である。

中村正氏には、最初に申し出をいただいてから10年近

くお待たせしてしまったことを深くお詫び申し上げるとともに、中村啓一氏の経歴等について多くのご教示をいただいたことに感謝申し上げます。

（小川）

(2) 資料の内容

10点のうち、現在までに製作者が特定できたものは2点である。

図15-1は大型の木彫り熊で台座が付属する。四つ足で踏ん張り、口には鮭を咥えており、熊本体と鮭の背は塗料で丁寧に着色されている。左後足の裏面に「ヒチカップ作」、台座に「中村啓一先生 1978シャクシャイン記念館落成記念 贈北海道ウタリ協会」の文字が刻まれている。「ヒチカップ」は勇払郡穂別町字仁和下（現在のむかわ町穂別仁和）で日胆民芸舎を営んだ山本勇氏が名乗った作家名である。

図16-3はシナノキの板を素材とし、向かって左側は樹皮直下の面を活かし、右側は直角に切り落としている。上部には一対の孔を穿ち、シナノキの内皮繊維を三つ編みにした提げ紐が取り付けられている。表面には親子熊が彫り出されており、子熊を優しく抱きかかえた母熊の表情が印象的である。裏面には「中村副知事 贈平取町長 一九七三. 九. 十一」と刻まれており、この記載をもとにして、2023（令和5）年5月17日に平取町で工芸家の方々からの聞き取り調査を実施したところ、当時平取町内でこうした作品を製作していたのは貝澤守幸氏（1977年没）のみであり、作風も一致しているとのことをご教示を得た。

その他の8点については、付属する情報が断片的なものに限られるか、完全に欠如しているため、製作者の特定に至っていない。

図15-2は小型の木彫り熊で、四つ足を着き、口を大きく開ける。全体が濃い褐色に着色され、目と鼻にはやや黒味が強い塗料が重ねられている。

図15-3も小型の木彫り熊で、台座が付属する。四つ足を着き、目には黒色の玉を象嵌する。台座の裏面には「第31回九江市傷痍軍人会連絡協議会 S53. 6. 14於札幌市」と刻印されている。

図15-4・5は男性の顔面像、図16-1・2は夫婦像で、いずれも刻印等が確認できない。

図16-4は女性の横顔をモチーフとした壁掛けで、針葉樹を用い、上下に樹皮を残している。裏面には「洞爺磯江」と刻印されている。

図16-5は男女の横顔をモチーフとした壁掛け。裏面には「贈中村啓一氏夫人来町記念 阿寒町中村啓一とすすむ北海道の会」の書き込みがある。

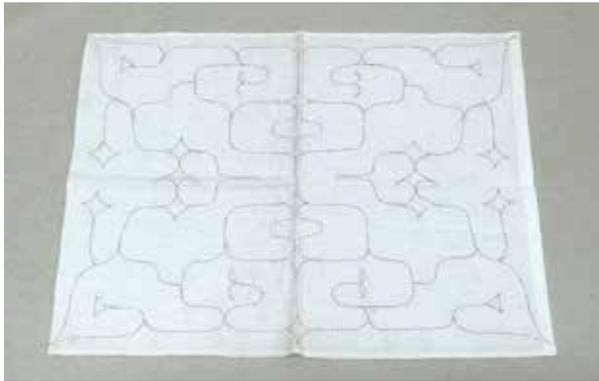
（大坂）

謝辞

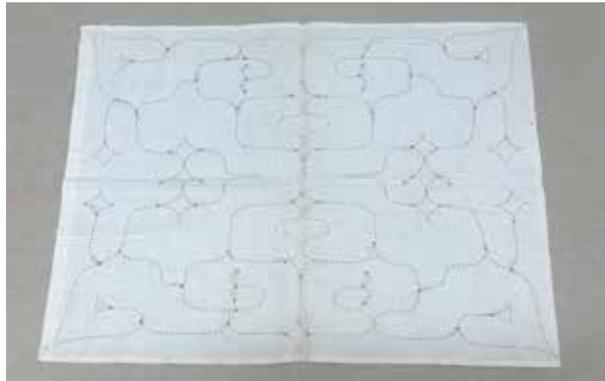
貴重な資料をご寄贈くださった加藤シヅエ氏、中村正氏、本稿をまとめるにあたり三上マリ子氏に関するさまざまな情報をご提供くださった山岸由史子氏、伊藤玲氏、古原敏弘氏、佐々木利和氏、また、貝澤守幸氏の作品について多大なご教示を賜った貝澤雪子氏、貝澤守氏、貝澤徹氏、関根真紀氏、高野繁広氏に対し、末筆ながらお礼申し上げます（順不同）。

参考文献

北の手仕事2019実行委員会 2019. 北の手仕事2019展示会「誌上編」. 北の手仕事2019実行委員会.
北海道新聞社 1985. 北の手仕事. 北海道新聞社.



1 資料番号 190835 (表)



2 資料番号 190835 (裏)



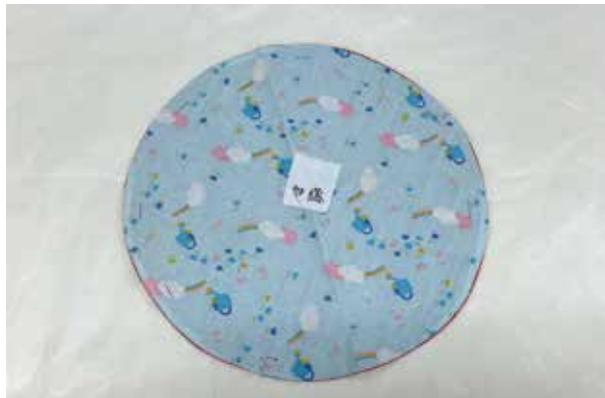
3 資料番号 190836 (表)



4 資料番号 190836 (裏)



5 資料番号 190837 (表)



6 資料番号 190837 (裏)



7 資料番号 190837 (刺繍部分拡大)

図1 加藤シツエ氏寄贈資料①



1 資料番号 190838 (表)



2 資料番号 190838 (裏)



3 資料番号 190839 (表)



4 資料番号 190839 (裏)



5 資料番号 190839 (中)



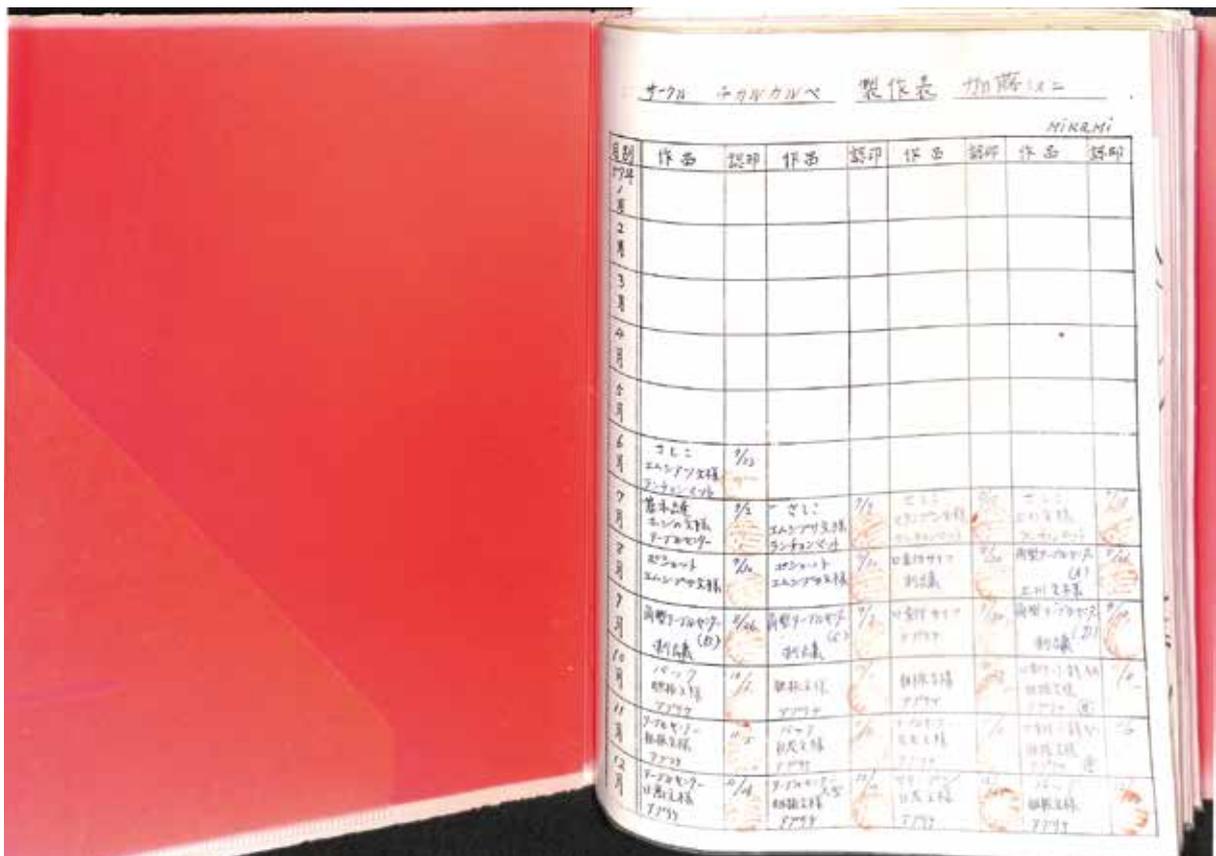
6 資料番号 190839 (刺繍部分拡大)

図2 加藤シヅエ氏寄贈資料②

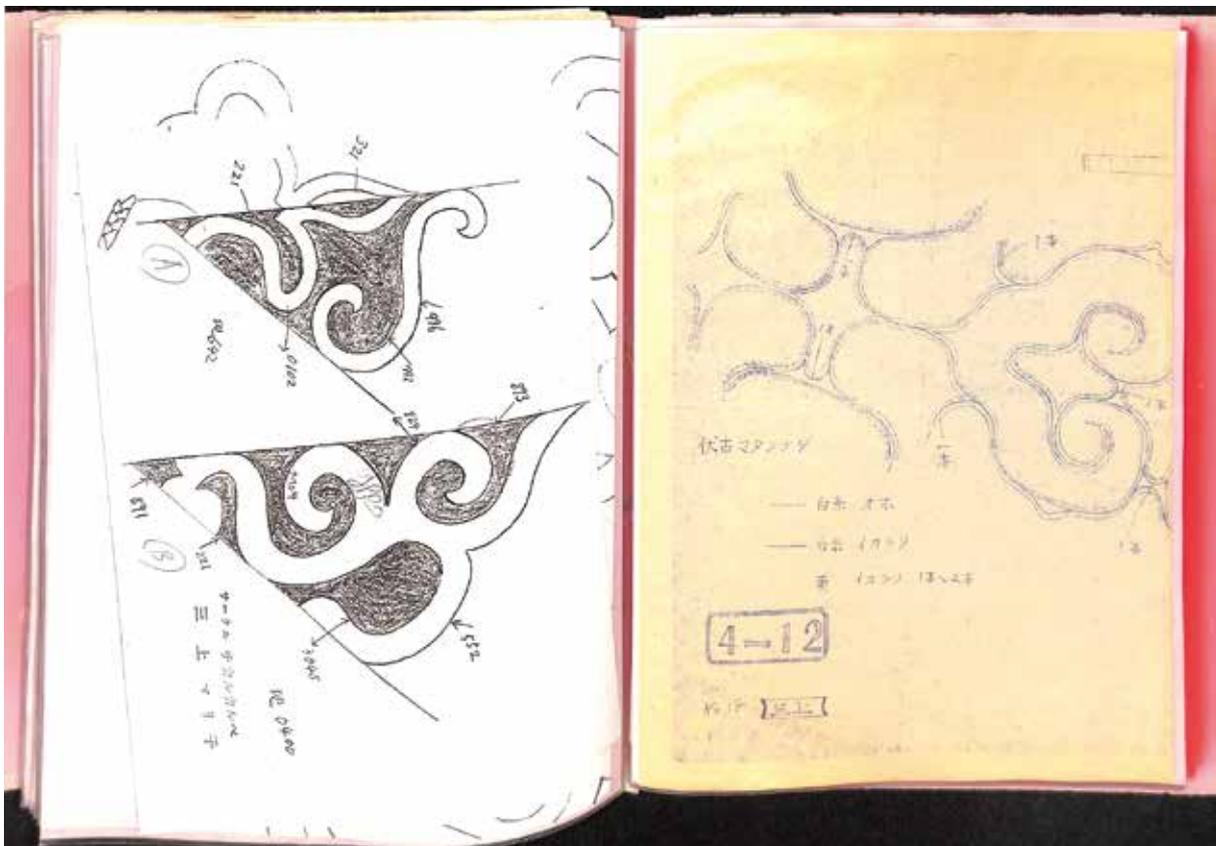


1 資料番号 190840 (表)

図3 加藤シツエ氏寄贈資料③



1 資料番号 190841 (クリアファイルを開いた様子 1)



2 資料番号 190841 (クリアファイルを開いた様子 2)

図 4 加藤シヅエ氏寄贈資料④

サークル チカルカルペ 製作表 加藤シツエ

MIKAMI

月別	作品	認印	作品	認印	作品	認印	作品	認印
57年 1月								
2月								
3月								
4月								
5月								
6月	さしこ エムシアツ文様 ランチョンマット	7/23						
7月	基本糸通 ホシの文様 テーブルセンター	7/2	さしこ エムシアツ文様 ランチョンマット	7/9	さしこ マタンフシ文様 ランチョンマット	7/15	さしこ 上川文様 ランチョンマット	7/15
8月	ホシエント エムシアツ文様	7/30	ホシエント エムシアツ文様	7/30	口金付サイフ 刺糸織	7/30	角型テーブルセンター (A) 上川文様	8/26
9月	角型テーブルセンター (B) 刺糸織	8/26	角型テーブルセンター (C) 刺糸織	9/3	口金付サイフ アフリケ	7/30	角型テーブルセンター (D) 刺糸織	9/10
10月	バック 胆振文様 アフリケ	10/1	胆振文様 アフリケ	10/1	胆振文様 アフリケ	10/29	口金付小銭入れ 胆振文様 アフリケ (H)	11/5
11月	テーブルセンター 胆振文様 アフリケ	11/5	バック 白老文様 アフリケ	11/5	テーブルセンター 白老文様 アフリケ	11/5	口金付小銭入れ 胆振文様 アフリケ (H)	11/5
12月	テーブルセンター 日高文様 アフリケ	11/26	テーブルセンター 大型 胆振文様 アフリケ	12/10	マタンフシ 白老文様 アフリケ	12/24	バック 胆振文様 アフリケ	12/24

1 資料番号 190841 (刺繍教室で使用していた「製作表」)

図5 加藤シツエ氏寄贈資料⑤

555年
三上
1982年

三上先生の略歴

- 1930.10.18 札幌市トヨヒラ区に生れる
 - 1947 私立静修高等女学校卒業
 - 1951 ドレスメーカー女学院卒業
 - “ “ 女学院に勤務
 - 1955 北海道ファッションコンクール特選に入賞(レインコート)
 - 1956 北大医学部解剖学オ2講座(研究室)にてアイヌ服飾文様の研究に従事
 - 1961 同校解剖学オ2講座研究室にて専務補佐員として解剖の応用から、アイヌ服飾文様研究に従事
 - 1967 「北海道の文化」12号に論文『千島アイヌと樺太アイヌの組紐文様』を発表
 - 1968 「北海道の文化」14号に論文『アイヌの刀装(エムシ)の文様について』を発表
 - 1971 北大を辞職
 - 1972 札幌にて「オ1回アイヌ文様室内装飾展」を開催
 - 1978(53)アイヌ文様刺繍サークル主宰
 - 1980 オ20回北海道秀作民芸品展入賞
 - “ アイヌ文様ポシット意匠登録。(3点)
 - “ 機動職業訓練校織布科オ1回講師
 - “ “ オ2回講師
 - 1981 “ “ オ2回講師
 - 1982 鶴川の織布科オ1回講師(1/12より)
- 〈文責小森谷〉

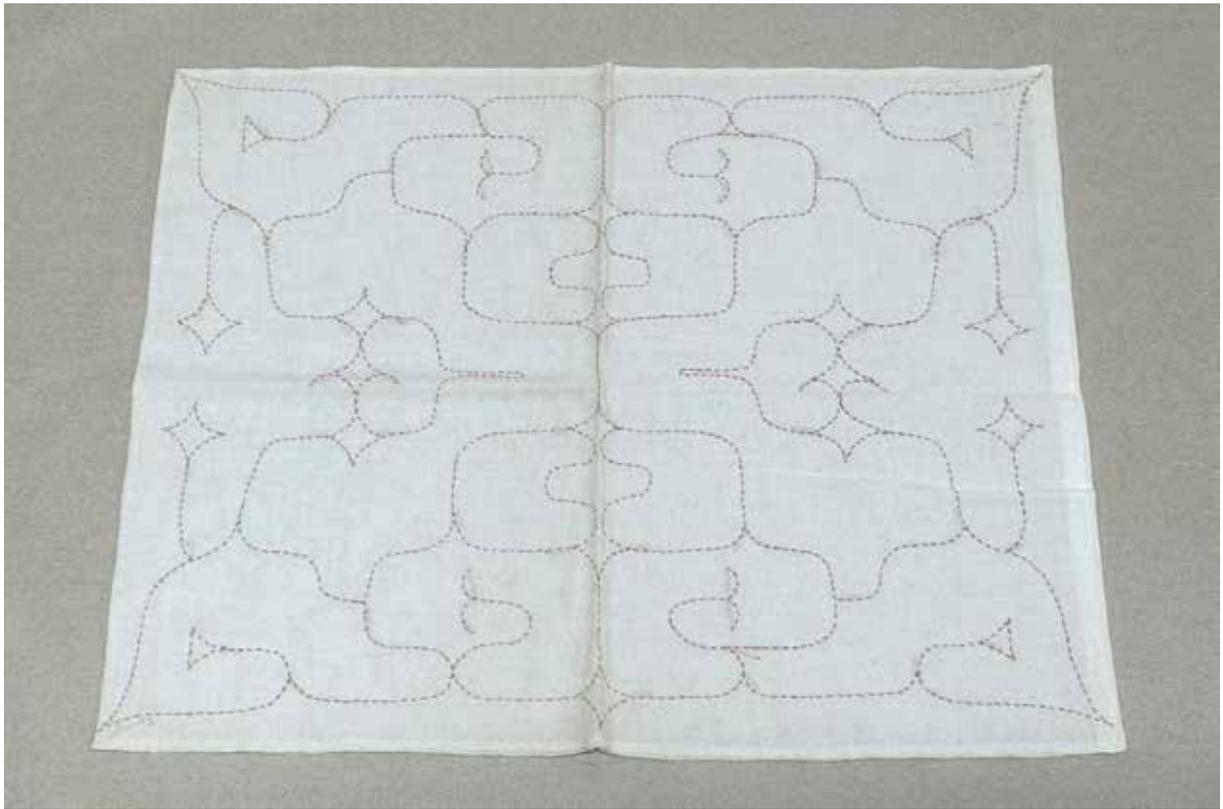
1982年
三上先生を励ます会
三上先生

伊藤節子
三上先生

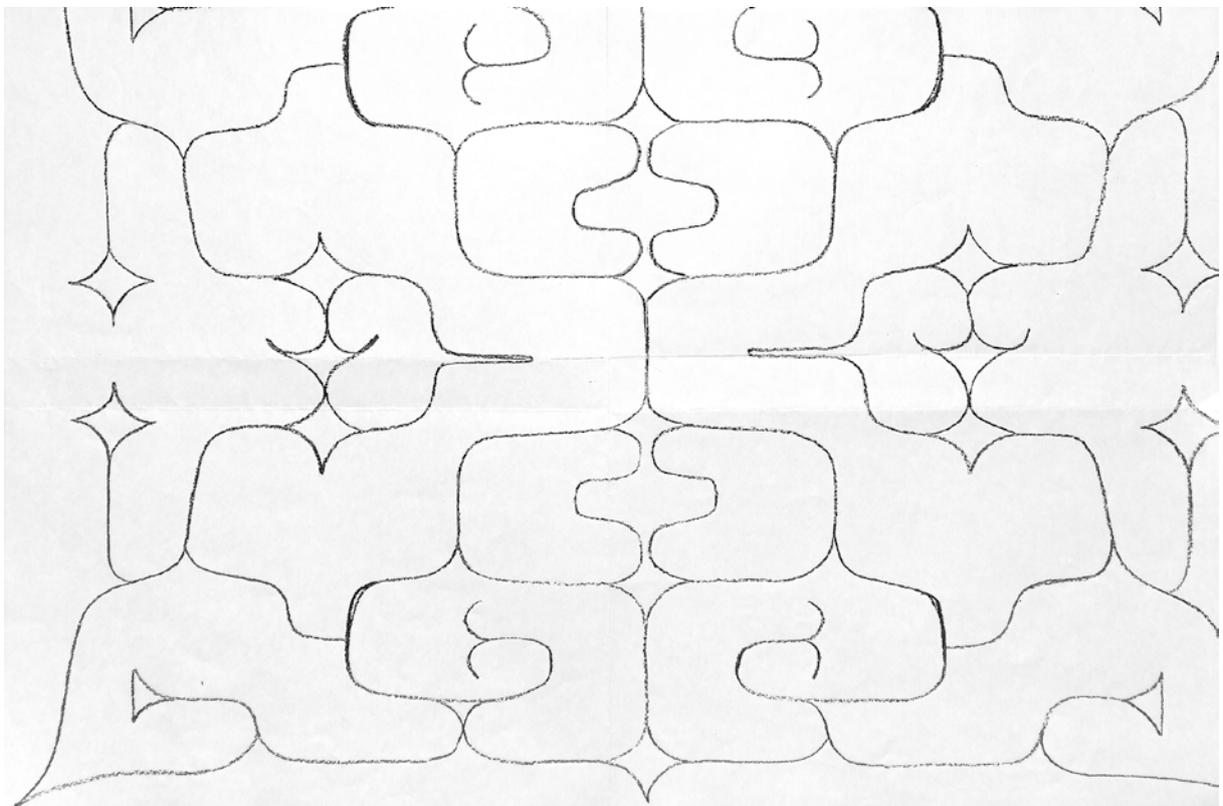
領収
¥2,800-
三上先生を励ます会
会費として
1982.1.8

1 資料番号 190841 (1982年1月8日に開催された「三上先生を励ます会」にて配布された冊子の裏表紙(三上マリ子氏の略歴))

図7 加藤シツエ氏寄贈資料⑦



1 資料番号 190835 刺し子

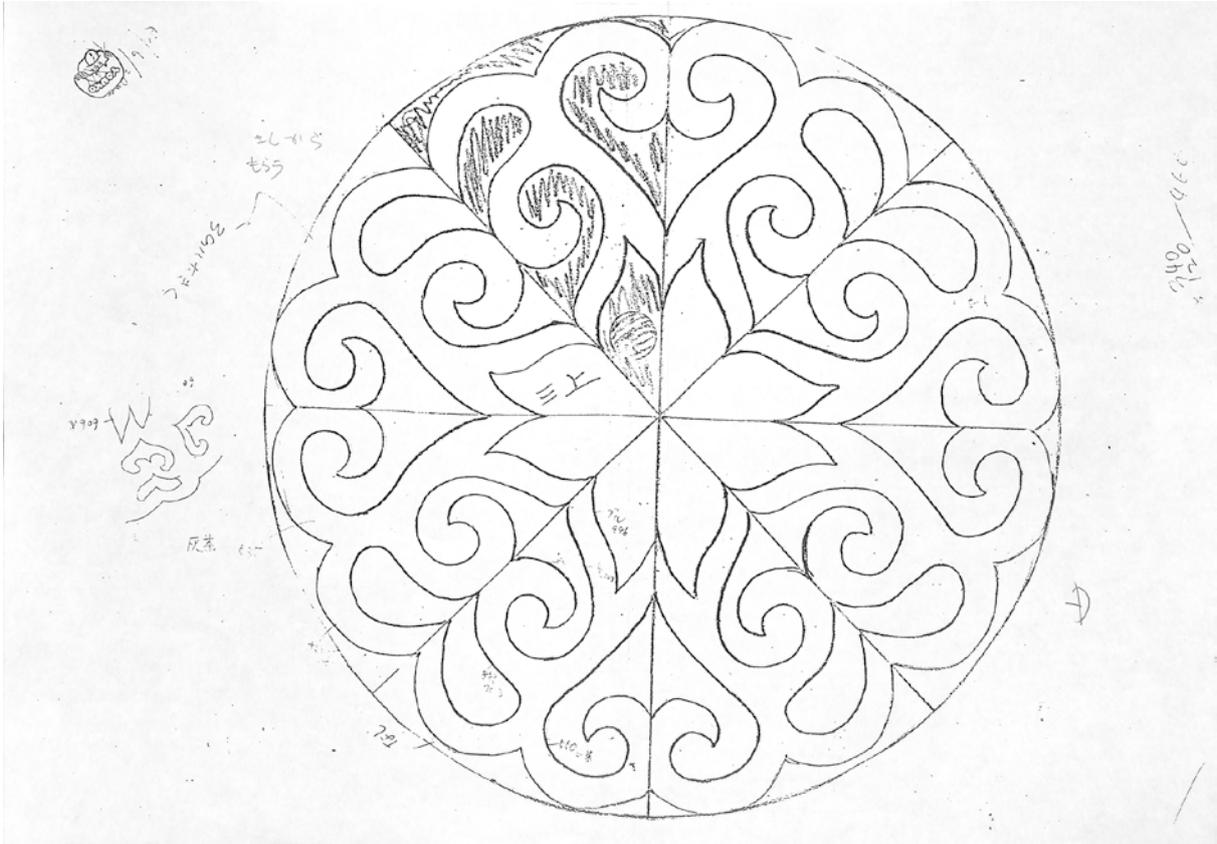


2 資料番号 190841 (刺し子 [190835] の型紙)

図8 加藤シヅエ氏寄贈資料⑧ 型紙と資料の対応関係 (1)



1 資料番号 190837 テーブルセンター

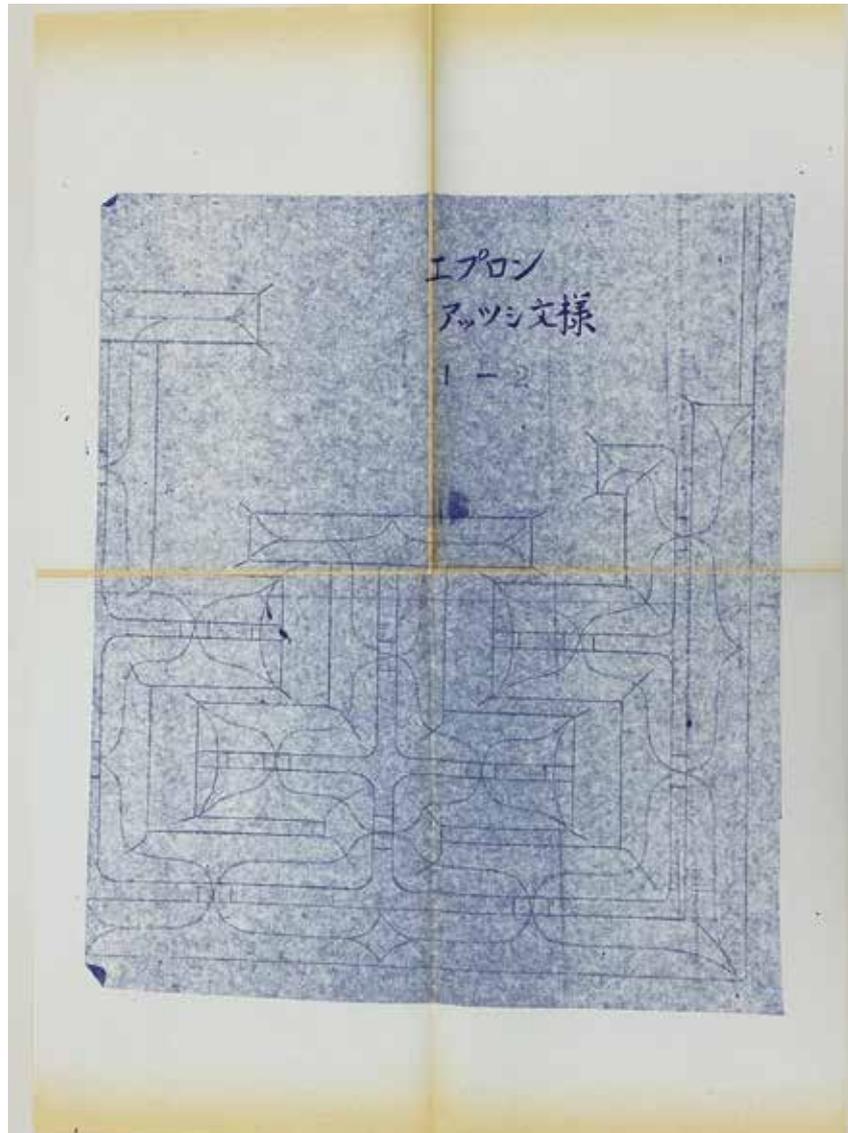


2 資料番号 190841 (テーブルセンター [190837] の型紙、個人情報保護のため一部修正)

図9 加藤シツエ氏寄贈資料⑨ 型紙と資料の対応関係 (2)



1 資料番号 190838 前掛け

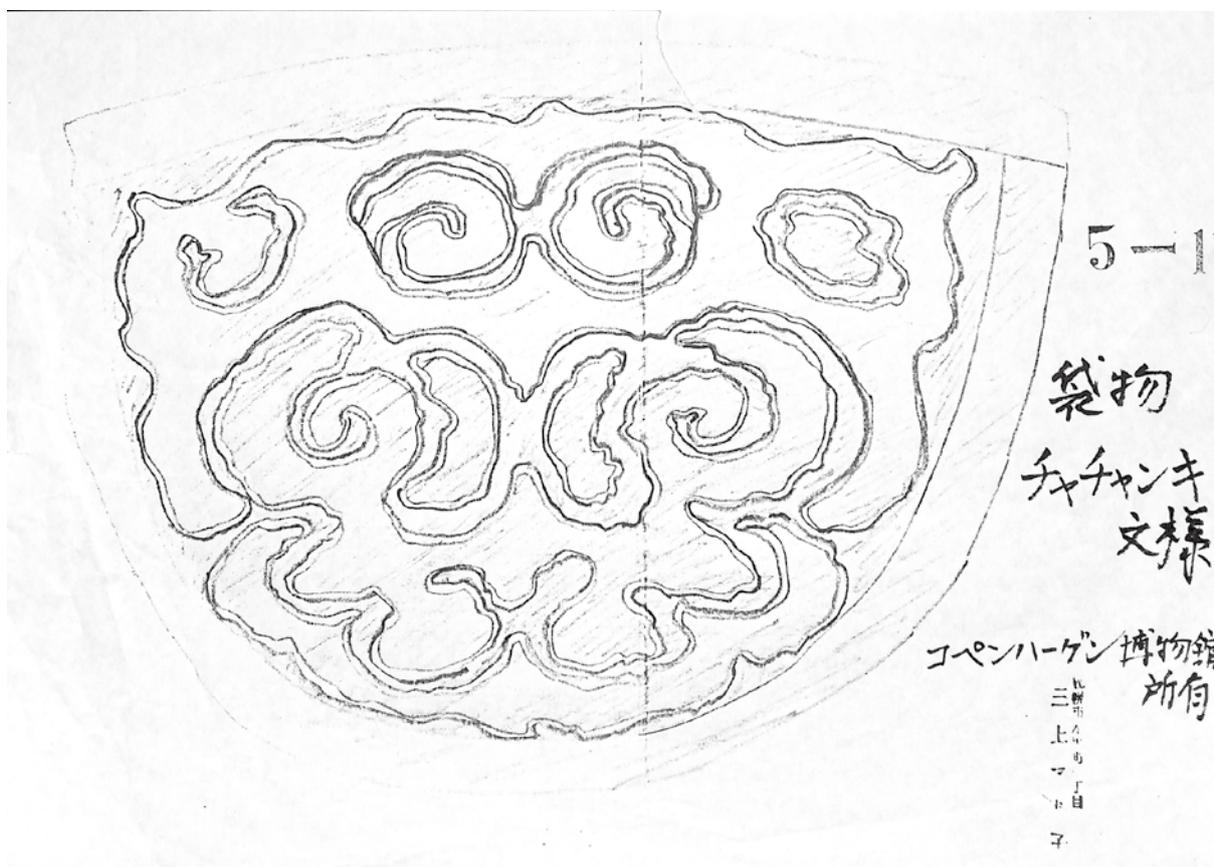


2 資料番号 190841 (前掛け [190838] の型紙)

図 10 加藤シツエ氏寄贈資料⑩ 型紙と資料の対応関係 (3)

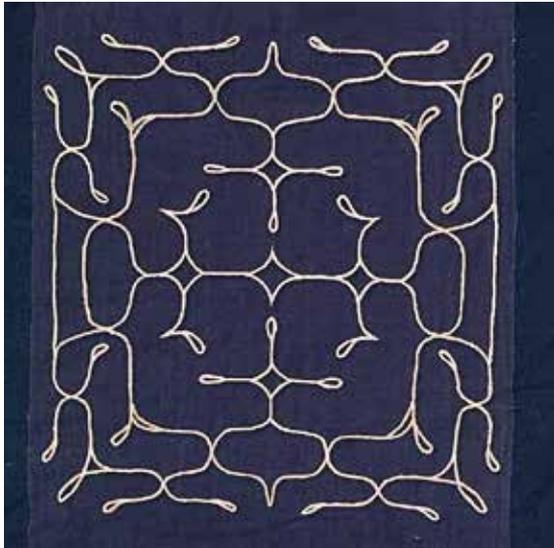


1 資料番号 190839 小物入れ

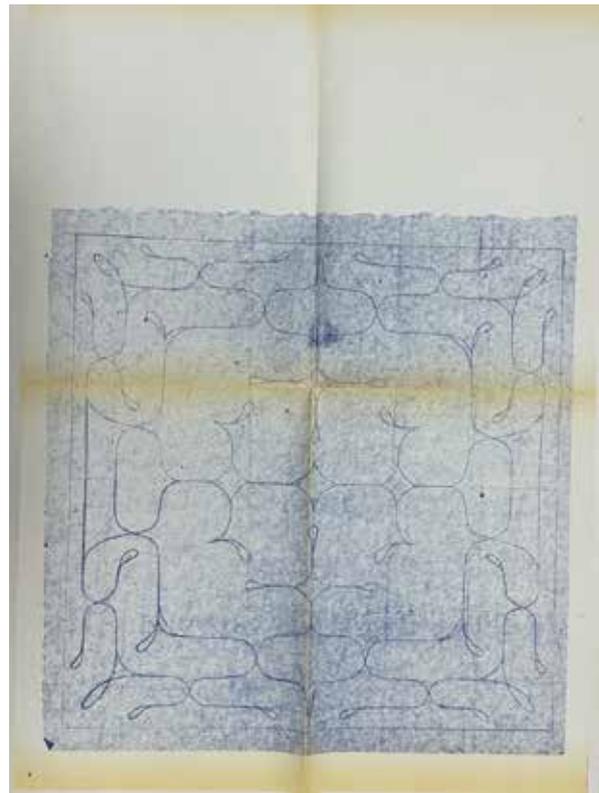


2 資料番号 190841 (小物入れ [190839] の型紙)

図 11 加藤シツエ氏寄贈資料① 型紙と資料の対応関係 (4)



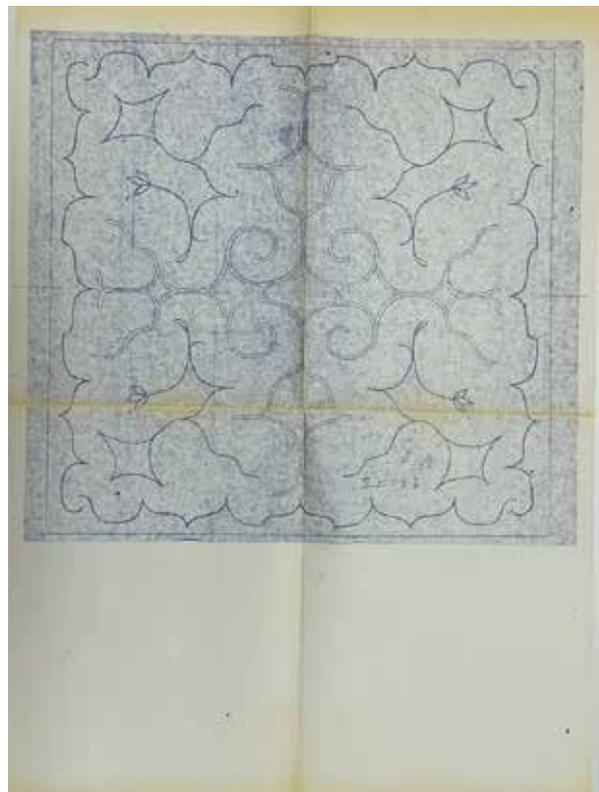
1 資料番号 190840 パッチワークの一部



2 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)

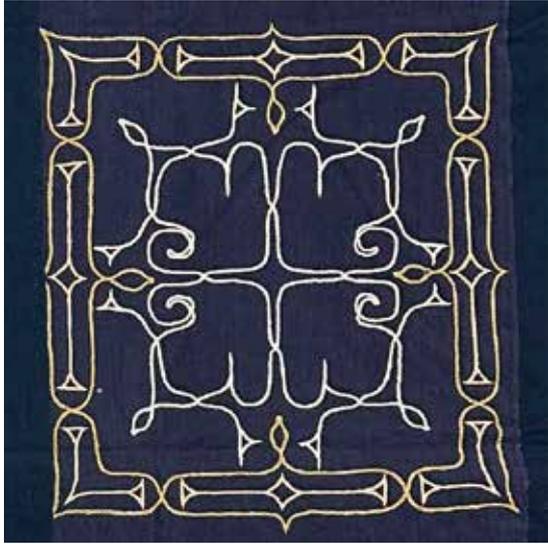


3 資料番号 190840 パッチワークの一部

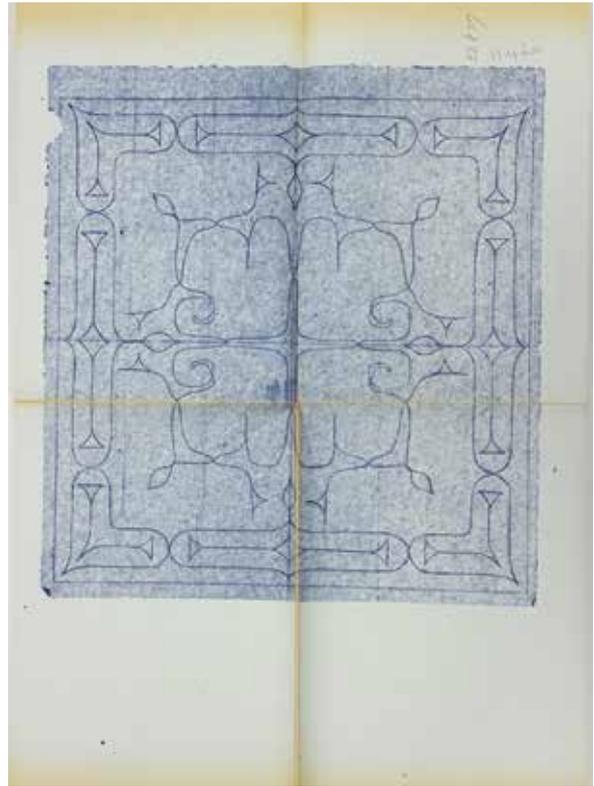


4 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)

図 12 加藤シヅエ氏寄贈資料⑫ 型紙と資料の対応関係 (5)



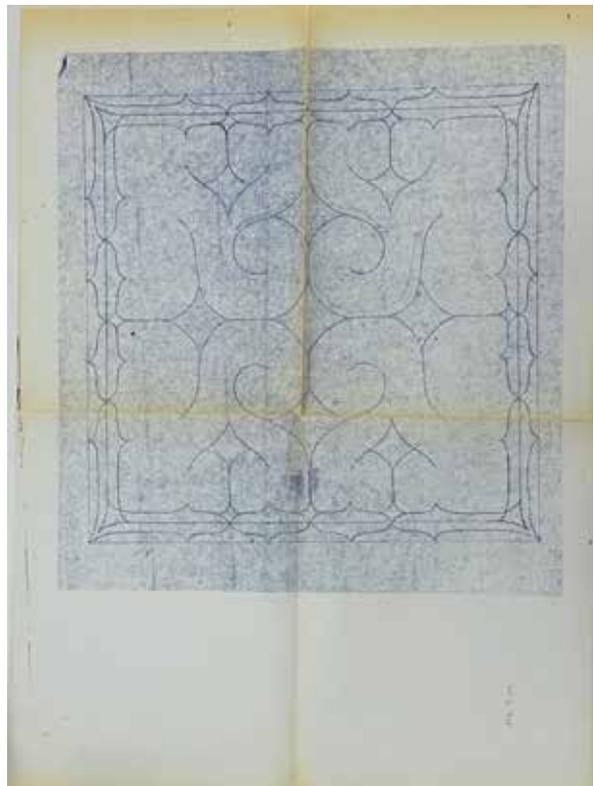
1 資料番号 190840 パッチワークの一部



2 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)



3 資料番号 190840 パッチワークの一部

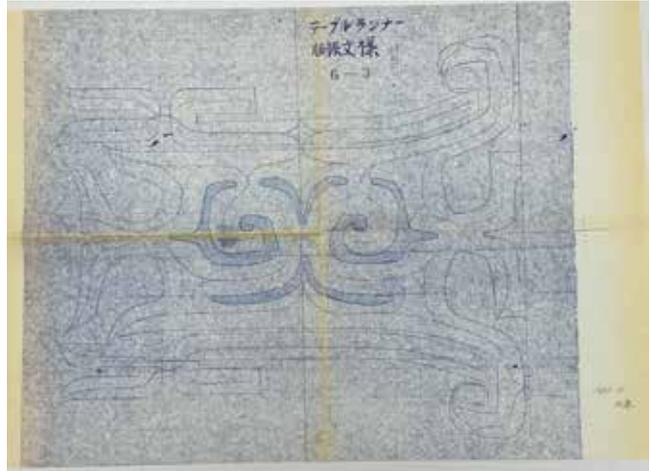


4 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)

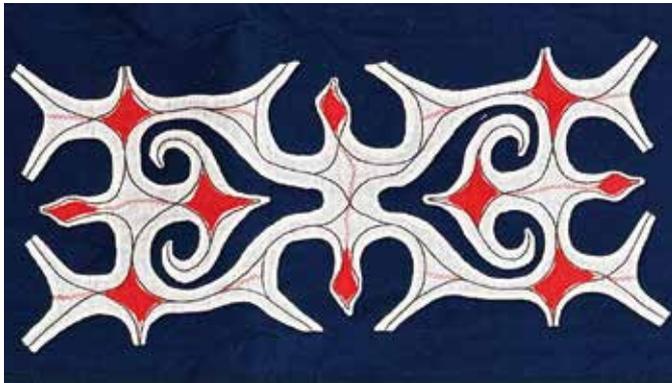
図 13 加藤シヅエ氏寄贈資料⑬ 型紙と資料の対応関係 (6)



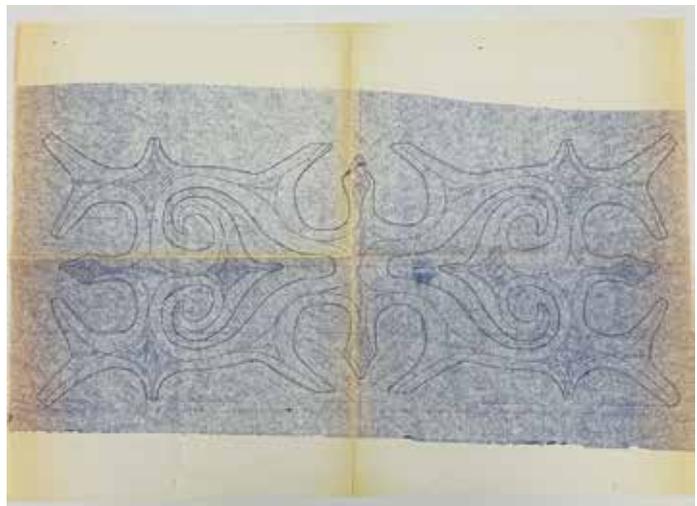
1 資料番号 190840 パッチワークの一部



2 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)



3 資料番号 190840 パッチワークの一部



4 資料番号 190841 (パッチワーク [190840] の型紙)

図 14 加藤シヅエ氏寄贈資料⑭ 型紙と資料の対応関係 (7)



1 資料番号 190842



2 資料番号 190843



3 資料番号 190844



4 資料番号 190845



5 資料番号 190846

図 15 中村啓一氏寄贈資料①



1 資料番号 190847



2 資料番号 190848



3 資料番号 190849



4 資料番号 190850



5 資料番号 190851

図 16 中村啓一氏寄贈資料②

表 2023年新規登録資料一覧

収蔵番号	資料名	サイズ (※計測値は、タテ(長さor奥行)×ヨコ(幅)×高さ(厚み)の順、いずれも最大値)
190835	刺し子	43cm×33.5cm
190836	刺し子	32cm×33.5cm
190837	テーブルセンター	30cm×30cm
190838	前掛け	60cm×70cm
190839	小物入れ	24.5cm×18cm×4.5cm
190840	刺繍作品のパッチワーク	186.5cm×164.5cm
190841	クリアファイル	A4サイズ
190842	クマ木彫置き物	本体：50.0cm×30.0cm×29.5cm、台座：26.5cm×52.0cm×3.3cm
190843	クマ木彫置き物	24.0cm×10.0cm×15.5cm
190844	クマ木彫置き物	本体：18.0cm×10.0cm×12.0cm、台座：10.4cm×19.6cm×2.0cm
190845	男性像	18.0cm×29.0cm×37.0cm
190846	男性像	21.0cm×19.0cm×38.0cm
190847	男女立像	男：8.0cm×8.0cm×18.5cm、女：8.0cm×8.0cm×18.5cm
190848	男女立像	男：11.0cm×10.0cm×24.5cm、女：10.0cm×9.0cm×24.0cm
190849	壁掛け	64.5cm×37.0cm×5.5cm
190850	壁掛け	34.5cm×40.0cm×5.8cm
190851	壁掛け	30.0cm×30.0cm×3.0cm

製作者	製作年	製作地	図版番号	備考
加藤シツエ	1982年頃	札幌市	図1：1,2、図8	
加藤シツエ	1982年頃	札幌市	図1：3,4	
加藤シツエ		札幌市	図1：5~7、図9	
加藤シツエ		札幌市	図2：1,2、図10	
加藤シツエ		札幌市	図2：3~6、図11	
加藤シツエ		札幌市	図3：1	
			図4~14	
山本勇	1978年頃	勇払郡穂別町 字仁和下 (現：むかわ 町穂別仁和)	図15：1	
			図15：2	
	1978年頃		図15：3	
			図15：4	
			図15：5	
			図16：1	
			図16：2	
貝澤守幸	1973年頃	沙流郡平取町 二風谷	図16：3	
			図16：4	
			図16：5	

Introduction of Objects Entering Museum Collection during 2023 Fiscal Year, part 1: Including Items Donated by Ms. KATŌ Shidzue

KAMEMARU Yukiko, OGAWA Masahito and OSAKA Taku

Of the objects which have been registered into the collection of the Hokkaido Museum Ainu Culture Research Center by the end of November 2023, this paper reports on 17 entries consisting of 19 objects corresponding to folkcraft articles.

Our report includes illustrations of the objects, as well as the appended "2023 Newly Registered Object List" (Table 1), which provides quick

reference to information regarding the objects, such as dimensions and creators.

The majority of the objects comprise articles such as wooden bear carvings and garments decorated with Ainu embroidery. Each holds considerable significance for purposes of passing on productions by contemporary Ainu artists, as well as records and history of these activities, to future generations.

KAMEMARU Yukiko : Ainu Culture Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum

OGAWA Masahito : Director, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum

OSAKA Taku : Ainu Culture Group, Ainu Culture Research Center, Hokkaido Museum
